

アメリカ大学のシステム



当然のようにアメリカの大学と日本の大学はシステムがずいぶん違います。ここでは基本的な大学のシステムなどをご紹介します。

● 入学システム

アメリカの大学には、日本のような「入学試験」がない。入学するためには、高校での成績、日本の「センター試験」のようなSATまたはACTという学力審査の得点、エッセイなどを提出して入学を志願し、大学から入学許可を得ることになる。

英語が母国語でない留学生の場合
TOEFLという英語テストで一定以上の点数を上げるといった条件が加えられる。

成績のほかに
高校時代のボランティア経験、クラブ活動、アルバイト歴も評価の対象となる。

● 転校・編入について

アメリカでは転校・編入は一般的。比較的多くの学生が転校・編入を経験する。時期は学部の前学期課程にあたる2年目終了後というのが一般的。費用の安い州立大学やコミュニティ・カレッジで前半の2年間を学び、後半はコロンビア大学などの有名私立大に転校して学位を得るという学生もいる。

もちろん、編入は大学によって一定の条件があり、学力・履修科目について審査される。編入時に注意しなければならないのは、自分の通う大学で得た単位が、希望の大学で認められるかどうかだ。州が異なる転校は認められるが、移行可能な単位数が減る可能性もある。

● 成績評価

評価はA B C D Fの5段階

- A は 優 秀 (excellent: 4)
-) B は 平均以上 (good : 3)
- 3) C は 平均 (average : 2)
- 2) D は 平均以下 (passing : 1)
- 1) F は 不 可 (failing)

成績でCやDを取ってしまったら、それを返上してクラスを再履修してでも、成績表に傷をつけないようにする学生もいる。もしもFがあれば大問題となる。

大学入学時には高校の成績を、大学院入学時には大学学部の成績をGPAで表し、学力の目安とする。

アメリカでは学期ごとにGPAを算出し、数値が2.0以下になるとProbationの警告をされる。

● 大学講義の特徴

Pragmatismの伝統(観念や思考は、行動となった結果からその価値を判断する)を受け継いだアメリカの学問は、実践的で実用的。机に向かう勉強のほか、現実を模したシミュレーション、ケーススタディ、インターンシップなどが盛んに行われている。

また、アメリカの大学は誰でも入れるが出るのは難しいといわれている。アメリカの全米大学ガイドによると、大学を4年間で卒業し、学位を取得する学生は多くの大学で50%以下となっている。途中でドロップアウト(退学)する学生が多いというのは、それだけ勉強が厳しく、学位を取得するのが大変だといえる。

毎日の授業は、週ごとに山のように宿題が出され、授業前の予習も必要不可欠。レポー

ト提出も頻繁にあり、学生たちがペーパーと呼ぶレポート提出の前夜は、ほとんどの学生が図書館にこもりっきりとなる。

厳しい環境だが、「自分だけでなく、まわりの学生たちも皆やっていることなので、頑張れる」という留学生が多い。



知っておきたい アメリカ大学豆知識



セメスター制 (Semester system)

1学期は9~12月、2学期は1~5月。その間の夏休みにSummer sessionを開設する大学もある。

クォーター制 (Quarter system)

1学年を4学期に分ける。9~12月、1~3月、4~6月、7~9月。4学期のうち7~9月の1学期を夏休みに当てる人もいる。

トリメスター制 (Trimester system)

1学年を3学期に分ける。9~12月、1~5月、6~9月。

入学時期

入学は9月だけでなく、多くの大学はどの学期の始まりからでも入学できる。ただし、アメリカの高校の卒業時期の関係から、9月に入学する学生が最も多い。9月は新入生のためのオリエンテーションがあったり、新入生用のプログラムが豊富だったり利点が多いので、心配は方は、9月入学が良いのでは。

学年について

入学時期がまちまちなので、日本の大学のようにクラス全員がそろって進級することはない。必要な単位数の取得した数によって学年が位置付けられる。

Exクォーター制の大学の場合(1例)

1年生: (Freshman)	単位数 45以下
2年生: (Sophomore)	単位数 46~90
3年生: (Junior)	単位数 91~135
4年制: (Senior)	単位数 136以上